

「新海洋混合学」国際活動支援成果報告書（2015 年度後期分）

平成 28 年 3 月 30 日

計画班名： A02-4

申請者氏名・所属・職名： 松野 健・九州大学応用力学研究所・教授

申請者連絡先 電話・メール：092-583-7731・matsuno@riam.kyushu-u.ac.jp

対象者氏名・所属・職名：松野 健・九州大学応用力学研究所・教授

郭 新宇・愛媛大学沿岸環境科学センター・教授

対象者連絡先 電話・メール：092-583-7731・matsuno@riam.kyushu-u.ac.jp

089-927-9824・guo.xinyu.mz@ehime-u.ac.jp

相手先氏名・所属・職名： Cesar Villanoy・フィリピン大学・教授

相手先連絡先 住所・電話・メール：Marine Science Institute

University of the Philippines

Diliman, Quezon City 1101

Philippines

Tel/Fax +63-2-9223957

c.villanoy@gmail.com

申請項目（複数可、数字を記入）：1、 3、 2

1. 国際共同航海の調整, 2. 拠点形成に関わる派遣・招聘, 3. 国際共同研究関連, 4. 研究者派遣, 5. 海外研究者招聘, 6. 研究技術研修, 7. 研究動向調査, 8. その他（ ）

申請課題名：ルソン海峡周辺海域における国際共同研究の調整

成果報告要旨（A4 数枚以上図表・写真等を含む研究成果報告詳細版を別ファイルで添付すること）：

2016 年 3 月 22 日に、フィリピン大学海洋科学研究所に Cesar Villanoy 教授を訪問し、2017 年に計画しているルソン海峡での観測に関する共同研究の打ち合わせを行った。同教授からはこの共同研究について前向きな回答が得られ、今後、より具体的な共同観測の調整を進めることで合意した。

全体計画・計画研究への寄与：

計画研究 A02-4 班の全体計画の中で重要な位置を占めるルソン海峡周辺海域での観測を実施するために、現地の研究者との協力関係が必要になるが、今回の訪問によって、フィリピンの研究者とのつながりができ、MSR 申請を含む観測計画を具体化する上で重要なステップになった。

制度の改善点・感想等：

国際的な観測を進める上で、人的な交流は重要な意味を持つため、本来の研究計画とは別に国際活動支援の枠組みがあることは、大きなサポート体制になっている。

実際の日程：

3月21日 大野城/松山—福岡空港—マニラ空港

空港からタクシーにて、フィリピン大学近くのホテル着

3月22日 フィリピン大学海洋科学研究所の Cesar Villanoy 教授を訪問。黒潮周辺部で進めている研究内容を紹介し、Luzon 海峡での共同研究の可能性と、研究の方法について検討を行った。

3月23日 ホテル発 タクシーにて空港へ。

マニラ空港—福岡空港—大野城/松山

使用した予算内訳（旅費とその他の経費に分けて記述）：